

じっくり育てたくさん収穫！ソラマメ栽培のポイント

～採れたては甘みがあって格別に美味しい！～

■種まき・苗づくり～定植

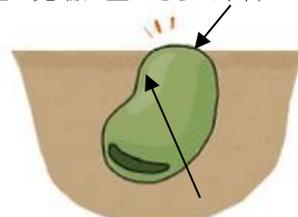
直まきすると欠株や生育の不揃いが起こりやすいため、9cmポットに種をまき移植するのがおすすめ。

マメのくぼみをやや上にして「おはぐろ」を斜め下にして土に挿し、種の頭が少し土から出るようにしてまく。発芽に酸素と水分を必要とするため、深まきや乾燥には注意する。

定植時期は本葉2枚の頃（11月中下旬）。畝幅150cm、株間50cm、1条植え。根を切らないように丁寧に植える。

- 種まき：10月下旬～11月上旬
- マメ科作物を3～4年植えていない畑を選ぶ
- 水はけの悪い畑は高畝にする

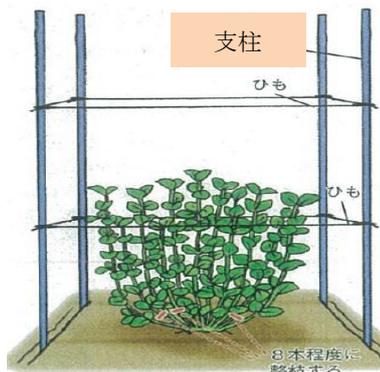
種先端は土から少し出す



種のくぼみをやや上にする

■定植後の管理ポイント

①整枝・誘引



- ・主枝を本葉5～7枚で摘心し、側枝の発生を促す。
- ・光や風通しを良くするため、草丈50～60cm頃に生育のよい枝を8本程度残し、他は元から切り取る。同時に株が倒れないように株元が隠れる程度に土寄せを行う。
- ・株が広がるため、支柱を立てて倒れないようにする。茎が80～90cmまで伸びすぎた場合は、先端から20cmほどを摘心して養分を子実集中させる。

②アブラムシ対策

茎先端の芽の部分は、糖分やタンパク質が多く、組織が柔らかいため、アブラムシが特に好んでつき、10～12月、4～5月に発生が多い。アブラムシはウイルス病などを媒介するため、きとんと防除する。

【対策】アブラムシがつきやすい成長点付近を取り除く。

枝が混み合わないよう枝を整理し、風通しをよくする。

株の固定時にシルバーテープを使用する。

農薬散布する。 ※「未成熟そらまめ」or「豆類」の登録農薬が使用可。

(例) 定植時：アドマイヤー1粒剤（植穴土壌混和、2g/株）

定植後：アディオオン乳剤（3,000倍、収穫7日前まで、3回以内）

- 元肥：(1㎡あたり)堆肥2kg、
苦土石灰150g、化成8号90g
- 追肥：化成8号各20g
 - ①3月上旬(開花始め)
 - ②3月下旬(莢肥大期)

■収穫

収穫適期は莢の産毛がとれ光沢が出て下向きになり、莢の緑色が濃くなり背すじが黒くなった頃。採り遅れは糖含量が減るため、食味が低下してしまうので注意する。

[
 峡南農務事務所 農業農村支援課（峡南地域普及センター）
 生産振興担当 055-240-4131